

科目名 看護技術の統合	授業担当者 近江 薫	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
授業の目的 複数の事例に対して看護技術を運用し、評価する方法の基礎を学ぶ。			
授業の概要 健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげる。臨床現場を想定した多重課題のシナリオ作成とロールプレイングを通して、ベッドサイドでの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 成人・老年看護学実習Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得した学生が履修する科目である。直後に控えた「看護の統合と実践実習」において複数事例の多重課題に対し、どのように優先順位を判断し、行動するのかを考える授業となる。実習だけでなく、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かされるよう、積極的な姿勢で講義やワークに取り組んでほしい。資料については各自プリントアウトして臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業計画ガイダンス、事例提示	講義	
2・3・4	2 事例のアセスメント・看護計画立案	個人ワーク	
5	看護計画発表会	グループ学習	
6	多重課題への対処	講義	
7・8・9	シナリオ作成、ロールプレイング準備	グループ学習	プロジェクト学習
10	記録(実践結果、評価)の仕方 ロールプレイング準備	講義・ グループ学習	プロジェクト学習
11・12	ロールプレイング発表会 記録(実践結果、評価)	グループ学習・ 個人ワーク	プロジェクト学習
13・14	記録指導を受け修正	個人ワーク	
15	振り返りレポート、授業のまとめ	講義・個人ワーク	
テキスト 系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院			
参考書・指定図書 課題に準じる。			
評価の方法 ①看護計画: 35 点 ②シナリオ、ロールプレイング: 42 点 ③振り返りレポート、全体: 23 点 教員による評価、グループによる評価、自己評価 合計 100 点で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	看護技術の統合 「臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動しよう！」プロジェクト	
主講師(ファシリテータ・協力者)	田安 和 (他 教員 4 名)	
受講対象	3 年生 34 名	
学習概要 (社会的意義)	臨床現場での多重課題対応を想定したシナリオを作成し、患者・家族・看護師をリアルに演じる。複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドでの確に情報獲得する力、優先順位を決定し行動する力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について理解を深める。	
キーワード	臨床多重課題、情報獲得、優先順位、時間管理、連絡・報告・相談	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 優先順位を判断し行動する力 <input type="checkbox"/> 業務量と自己の力量を照合し、事前準備・時間配分する力 <input type="checkbox"/> 看護チームにおいて、適時に連絡・報告・相談・協力依頼する力 <input type="checkbox"/> 患者・家族に説明し同意を得る力	普遍知 <input type="checkbox"/> 観察する力、状況をつかむ力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力、目の前の事態に対応する力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力、根拠をもとに説明する力、他者のプレゼンから学びとる力 <input type="checkbox"/> 成長や成果を評価する力、より成長しようとする意欲
学習アウトカム	「臨床多重課題シナリオ」、ロールプレイング	
評価方法	評価表に基づく「臨床多重課題シナリオ」とロールプレイングの評価(学生・教員評価)	
実施月日 月 日～ 月 日	5 月～9 月 ▶ 10 月～11 月 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 準備 ビジョン・ゴール 計画 情報・解決策 制作 プレゼン 再構築 成長確認 </div>	
講義室・場所	教室、図書室、演習室	
展開内容	講義・AL	自学
プロジェクト学習 ビジョン：看護チームの一員として、臨床現場で多重課題・複雑性に対応できるようになりたい。 ゴール：臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる	事前：5～9 月臨地実習場で情報収集(臨床現場で看護師はどのような多重課題に遭遇しやすく、どのように対応しているか。看護師を観察、看護師にインタビュー等)<個人ワーク>	
	1 回目/授業全 15 回：2 事例の人物想定(「R10 シート」作成)<グループワーク> →看護計画立案<個人ワーク>	
	6 回目：<講義>臨床多重課題への対応	
	7・8・9 回目：2 事例に同時対応する「臨床多重課題シナリオ」を作成<グループワーク>	
	10 回目：ロールプレイングの準備・練習<グループワーク>	
	11・12 回目：ロールプレイング発表会<全グループ合同>	
プロジェクト学習 e ラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/	
テキスト・参考図書	系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院	
履修要件	成人・老年看護学実習Ⅲ、小児・母性・精神看護学実習、地域・在宅看護論実習の全単位を修得し、看護の統合と実践実習の履修を控えた学生	
他講義との関連	看護の統合と実践実習(複数患者受け持ち、メンバー看護師業務見学、夜間実習)	
受講生へのメッセージ	臨床現場で看護師が遭遇しやすい多重課題対応をイメージし模擬体験することで、直後に控えた「看護の統合と実践実習」(初めての複数患者受け持ち)や、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かしてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。